

道、和して、心定まる」最近私が色紙に書き心に留めている言葉です。道を究めるには色々な条件を満たし、調和がとれて完成してきます。悟りの姿です。悟りを得て初めて心が定まってきます。棟梁で例えてみますと材料の木の良し悪しを判断する目を養い、勿論木にも上下があるのでしようし、木々を何処に使えばその木が一番映えるか使う場所も選んでやらなければなりません。資材を生かす為には「道具の選び方、研ぎ方、使い方、技術」を研かねばなりません。又、建てる場所に因っても問題が生じるでしょう。全てをマスターしたと思っても満足する仕事は、ほとんど無いと思います。資金の問題、時間の問題等色々制約がつくものです。道、和して、心定まる」とは言っても現実には不可能に近いのです。百パーセントを望むも**その時の条件で最高の物を作り出す**と言う事です。仕事の上で不足の念を抱けば物事は成就しません。不足とは足りない物があるということです。何が足りないのかを今一度考えてみる必要があります。そこから道は開けて来ると思っています。

佛の教えに五逆罪があります。『無量壽經』の中に阿弥陀様が御誓いになられた四十八の願文があります。その第十八願「浄土宗では念佛往生の願」に「極樂に往生したければお念仏を称えなさい。念仏を称える者は私、阿弥陀仏が極樂に往生させてあげますよ、しかしながら、**五逆罪と正法を誹謗する人は極樂に往生させる事は出来ませんよ**」と説かれています。五逆罪の一つに、**親不孝**があります。親に成れば我を忘れて子に思いをはせます。二宮尊徳の歌に「遣えば立て 立てば歩めの 親心 われに寄りくる 年は忘れて」があります。なに子が結婚して所帯を持つと親の事は忘れがちになります。悪く言えば親を邪魔者扱いする者も出て来るしだいです。思い当たる事はありませんか。親の意に反して生活していませんか。白隠禅師の施行歌に「今生**富貴**する人は前世に蒔いた種がある 今生**施**しせぬ人は未来は極めて**貧**なるぞ 利口で富貴が成るならば 鈍なる人はみな貧か 利口で貧乏するを見よ **此の世は前世の種次第 未来は此の世の種次第** 富貴に大小ある事は時く種大小ある故ぞ 云々 我が子の繁昌祈るなら 人を倒さず施行せよ 人を倒して持つ宝 我が子に譲りて怨となる人の恨みを受けぬれば 譲る我が子の浮き沈み 云々 子を慈しむ親心 荒い風をも厭いしぞ それ程親に思われて 親を思わぬ愚かさよ 親に不幸な人々は 鳩や鳥に劣りたり 云々」一般的に生活をするには親の恩だけで無く、人々を助け又、助けられ、守り、守られながら七月号で述べました天地の恵みを頂き、お互いに気配りをしながら感謝の言葉と共に日々の暮らしをすればそれが**施行**であり、社会環境が良くなり、我等を仕合せの中に包み込んでくれます。逆に不満を抱く人が増えれば大きな不具合をもたらす事に成るでしょう。